



和's YAMATO (わずやまと)

2023
初春号

- 写真で楽しむ群馬の自然
「群馬県立多々良沼公園」
- お客様紹介「エフエム群馬」様
- シリーズ群馬の芸術家「塩原友子」
- 郷土史跡めぐり「お春名古屋」
- 家康公生誕の地 岡崎
- 第一回 人質の危機
- 徳川家康を襲う数々の危機



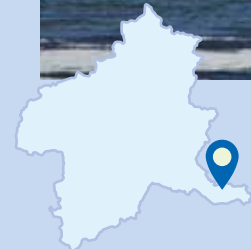
「野の春・カタクリとメジロのつがい」 F6号 須藤和之画
ヤマトビオトップ園にて



写真で楽しむ 群馬の自然



群馬県館林市から邑楽町にまたがる群馬県立多々良沼公園は、冬になると白鳥が飛来し、風物詩になっています。飛来するのは主にコハクチョウで、例年11月下旬にシベリアから訪れ、翌年3月中旬ごろには、北へと帰っていきます。飛来数が最も多くなるのは、1月下旬から2月上旬です。



群馬県立 多々良沼公園

住所：群馬県館林市松沼町30-10

撮影 藤重 朋紀 氏

略歴 1952 群馬県利根郡みなかみ町生まれ
1971 群馬県立渋川高等学校卒業
1972 東京写真専門学校中退

1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社
2001 フリー
2010 写真集「上州路・一本桜」
2011 写真集「上州路」

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール PROFILE

表紙の絵「野の春・カタクリとメジロのつがい」

1981年 群馬県前橋市生まれ

2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠轡)(同2011~20) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トッププランナーⅢ出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト) 現在 日本美術院院友

OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutoooo.net/>



和's YAMATO (わずやまと) 初春号 2023 (第55号)

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和's YAMATO 初春号 2023年(令和5年) 1月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室)群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター
ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



徳川家康を襲う数々の危機

監修…歴史家・文学博士 安藤優一郎氏 文・写真…木下直也



徳川家康公像

写真提供：岡崎市

徳川家康は戦国時代を終わらせ、泰平の世・江戸を開いた英傑です。しかし、その七十余年にわたる生涯は、度重なる危機の連続でした。家康が徳川幕府を開くに至るまでに直面した数々の危機に着目し、絶体絶命の窮地をどのように乗り越えていったかを紹介します。

松平氏の来歴

家康に縁の深い三河国は、承久の乱（1221年）後に足利氏が代々守護を務め、室町時代（1336年）からは一色氏、細川氏が守護職を務めた。また、足利氏一門の今川氏は駿河・遠江の守護、斯波氏は尾張の守護として、東海地方の覇権を争っていた。

家康の本来・松平氏は室町時代に三河国で興った小豪族である。初代の松平親氏は、元は僧侶の徳阿弥で、松平郷（現在の豊田市）の松平太郎左衛門の入婿となり、親氏と名乗った。家康は松平家の九代目だが、松平家は本家（惣領家）が連綿と続いて家康に至るのではなく、本家が衰退して分家（庶家）が家督を継承する時代があった。松平惣領家七代目の清康は、松平庶家が独立の傾向を示したため、それを圧伏し、居城を岡崎（家康の生誕地）に定める。

天文4年（1535）、清康は織田家の所領である尾張守山（東春日井郡）攻めの最中に家臣に殺害される。岡崎城には清康の叔父で庶家の松平信定が入り、一族の惣領的立場となる。信定は清康の嫡男・広忠（家康の父）の家督相続に反対し、広忠は伊勢に逃亡、その後今川義元を頼る。

家康、人質の危機

家康の父・松平広忠は、叔父の信定に岡崎城を追われ伊勢に逃れていたが、天文6年（1537）に今川氏の後押しで岡崎城に帰城する。同11年（1542）に家康（幼名・竹千代）が誕生、父・広忠は17歳、母・於大は十五歳だった。於大は三河国刈谷城主の水野家の娘で、天文12年（1543）に於大の兄・水野信元は、従属していた今川家から織田家に寝返ったため、今川方の広忠と敵

第一回 人質の危機

今川氏の人質から三河平定へ

対関係となり、翌年に広忠は於大と離縁する。

天文16年（1547）、織田信秀（信長の父）が三河に侵攻し、松平家が支配していた安城城を攻略する。広忠は、安城城を取り戻すために今川氏の支援を受けようとし、今川氏を裏切らない証に竹千代を人質に差し出す。竹千代は駿府に送られる途中、織田方に奪われ、約3年間、織田氏の人質となる。翌年、広忠が家臣に殺害され、岡崎城は城主不在となり、同城は今川氏が接收した。今川氏は織田氏が支配する安城城を攻め落とし、城主の織田信広を捕虜にする。今川氏と織田氏は、竹千代と信広の交換を条件に停戦し、竹千代は今川家での人質生活が始まる。

天文24年（1555）、竹千代は14歳の時に今川義元が烏帽子親となり元服、義元の一文字を与えられ、元信と名乗り、義元への臣従が明確になる。元信は今川一門の娘（後に築山殿と呼ばれる）を娶り、竹千代（信康）と亀姫を儲ける。

家康、今川家と訣別し三河統一に着手

尾張国では天文20年（1551）に織田信秀が死去し、弘治2年（1556）に信長とその弟の信行と家督争いが起こる。信行は拳兵するが信長に敗れ、信長は尾張国をほぼ制圧するが、その一部は今川義元の支配下にあった。永禄2年（1559）、義元は尾張に侵攻するが、信長の反攻を受けたため、翌年の永禄3年5月に大軍を率いて尾張に進軍する。今川方の元康（家康）は今川方の大高城に兵糧を運び入れた。義元は駿河を出陣後、桶狭間に着陣した際、信長勢の突撃に押されて本隊が大混乱をきたし、義元は討死する。

義元の死により今川家は衰退していく。元康は今川氏の人質生活から解放され、岡崎城に入城。永禄4年（1561）に清州城で信長と和睦した。美濃侵攻を目指す信長と、三河平定に集中したい元康の利害が一致した結果、信長との同盟関係が強まった。同年に元康から家康に改名し、今川家と訣別した。

岡崎城と紅葉



写真提供：岡崎市

徳川家康公像



松平から徳川に改姓した25歳当時の若い家康公がモチーフで、騎馬にまたがり弓を構えている。台座を含めた全高は9.5m。日本最大級の騎馬像。名鉄東岡崎駅北東のペDESTリアンデッキ上にある。2019年11月建立。

【銅像】高さ…約5.3メートル
奥行き…約4.8メートル

【台座】高さ…約4.2メートル
奥行き…約4.4メートル
幅…約2.2メートル

三河国と周辺の地図



家康公 生誕の地 岡崎

OKAZAKI

愛知県岡崎市は、徳川家康公生誕の地で、家康公ゆかりの史跡、神社仏閣が点在しています。岡崎城がある岡崎公園は、城を中心として岡崎東照宮、龍城神社、東照公産湯の井戸、えな塚などがある歴史公園です。

岡崎公園所在地：愛知県岡崎市康生町561-1
名鉄「東岡崎駅」より徒歩15分

家康公生誕の城

岡崎城

岡崎城は15世紀中頃に築城され、享禄3年（1530）に松平清康（家康の祖父）が本拠とした。徳川家康は、天文11年（1542年）12月26日に岡崎城内で誕生した。江戸時代、岡崎城は「神君出生の城」として神聖視され、本多氏、水野氏、松平氏など、家格の高い譜代大名が城主となった。石高は5万石前後と小規模なものの、大名は岡崎城主となることを誇りにしていたという。

に及ぶ総堀をつくった。城郭の整備にともない東海道が城下に引き入れられ、慶長14年（1609）には伝馬町ができて、岡崎は東海道有数の宿場町として繁栄した。元和3年（1617）には本多康紀により天守閣が建てられた。明治6年（1873）に城郭は取り壊されたが、昭和34年（1959）に天守閣が復元された。

2006年には日本100名城に選定される。2023年1月20日まで改修工事のため休館。



岡崎城（左）と岡崎東照宮（右）

祭神：徳川家康公
本多忠勝公他
祭神は徳川家康公と本多忠勝公の2柱。当初岡崎城内本丸に東照宮が祀られ、その後、明和7年（1770）忠勝の直系忠肅が城主のとき、三の丸に移転し家祖である忠勝を合祀した。社殿は昭和23年（1948）に焼失したため、本殿は市内中之郷の大聖寺にあった東照宮を移築し、拝殿は昭和39年（1964）に再建され、天神地祇護国英霊を合祀した。

岡崎城



岡崎東照宮 龍城神社



胞衣塚



家康公の功績を広く知らしめるため、昭和11年（1936）に岡崎公園整備の一環として建てられた。胞衣とは、出産時に排出された胎盤などのことで、子供の成長と出世を願う風習から胞衣を壺に入れ埋納した。胞衣を埋めた場所には塚や碑が造られ、信仰の対象となる場合もあった。

東照公産湯の井戸



家康公が生誕した際、この井戸から産湯の水を汲んだと伝えられている。産湯は、松平氏発祥の地である松平郷（愛知県豊田市）や、産土神である六所神社（岡崎市）からも届けられたと伝わる。東照公産湯の井戸から汲み上げた水に触れることができる。

写真提供：岡崎市

家康公ゆかりの神社仏閣

愛知県岡崎市

だいじゅじ

大樹寺

【所在地】愛知県岡崎市鴨田町字広元5-1
愛知環状鉄道「大門駅」より徒歩10分、
名鉄「東岡崎駅」より名鉄バス「大樹寺」下車 徒歩5分

大樹寺 本堂



山門



将軍御なりの間



写真提供：岡崎市

六所神社

【所在地】愛知県岡崎市明大寺町字耳取44
東名高速道路「岡崎IC」より約10分、
名鉄「東岡崎駅」駅南口より徒歩2分

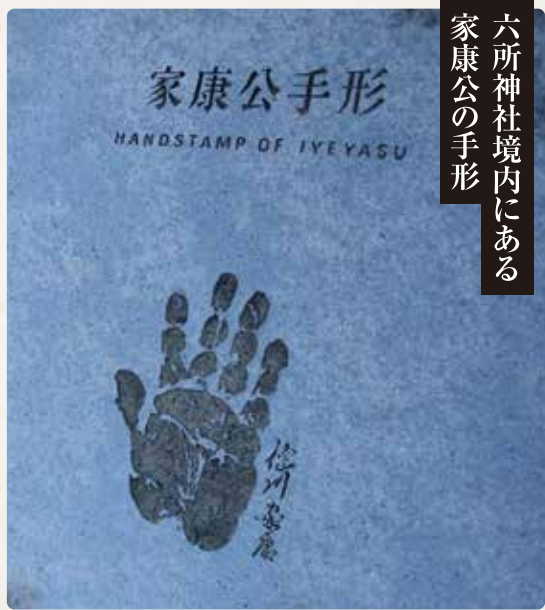
ろくしょじんじや

六所神社は松平家の産土神。松平家・徳川家の崇敬が篤く、現在も「安産の神様」として信仰されている。徳川家康公誕生の際には、松平氏の産土神としての拝礼があったと言われていた。5万石以上の大名だけが上ることを許されたという石段をあげると、極彩色の楼門、その奥に社殿が現れる。華麗な彫刻や彩色はいずれも江戸時代のもので、3代将軍家光公の命により整えられた。昭和51年（1976）に日光東照宮と同じ手法によって修復工事が行われ、建立当時の美しさを再現した。本殿・幣殿・拜殿・楼門・神供所は国の重要文化財に指定されている。

六所神社



六所神社境内にある
家康公の手形



徳川家のルーツ

松平郷

まつだいらごう

松平郷は、徳川家のルーツといわれる松平氏の発祥の地で、松平東照宮や松平氏の初代・親氏公をまつる高月院がある。

【所在地】愛知県豊田市松平町赤原9-1
東海環状自動車道「豊田松平IC」より約15分、
豊田市駅からバス「松平郷」下車 徒歩5分

松平東照宮



天井画



産湯の井戸



高月院



松平東照宮は、徳川家康公と、松平氏の始祖・松平親氏公を祀る。境内には、松平氏の屋敷があった場所、家康公の産湯として用いられたと言われる井戸が残されている。この水は不老長寿や安産に御利益があるとされ、御神水として参拝者に授けられている。

松平親氏公像



高月院（旧称は「寂静寺」）は在原信重（親氏の妻の父親）の援助で建立し、天授3年（1377）に親氏が本尊阿弥陀仏をはじめ、堂・塔のすべてを寄進し、松平氏の菩提寺となり、高月院と称した。その後、徳川家康によって寺領100石が与えられ、明治維新まで将軍家から厚い保護を受けた。山門や本堂は、寛永18年（1641）に徳川家光によって建てられたものといわれている。

徳川氏発祥の地の由来

群馬県太田市世良田町

徳川氏の遠祖は、上野国新田郡一円を支配していた源氏の嫡流・新田氏とされています。平安時代末期の「後三年の役」で反乱軍を征伐した源義家は、東国で勢力を拡大しました。義家から二代後の義重は「新田の庄」を開き、新田氏の祖となりました。仁安三年（1168年）、義重は世良田などの開拓の地を四男義季に譲りました。

新田義季は上野国新田郡世良田莊徳川郷（現在の群馬県太田市尾島町）に住んで徳川（または得川）を称し、徳川義季と名乗りました。これが徳川氏発祥の始まりといわれています。

その後、義季の子孫である親氏は、室町時代の永享の乱で、幕府に対抗して敗死した鎌倉公方の足利持氏に加担していたため徳川郷を追われ、父有親とともに諸国を放浪しました。その過程で、三河松平郷（愛知県豊田市）の郷主・松平信重に入婿し、松平親氏と名乗りました。その松平親氏の子孫であるといわれている松平家康は、永禄9年（1566）に徳川姓を名乗り徳川家康となります。

世良田東照宮全景



天海大僧正の発願により、日光から長楽寺境内に勧請された神社。三代将軍家光が日光東照宮を改築した際、世良田東照宮に旧奥社の拝殿と宝塔が移築された。

長楽寺太鼓門



長楽寺三仏堂



長楽寺は承久3年（1221）、新田義重の四男で徳川氏始祖の義季が、臨済宗の開祖栄西の高弟栄朝を招いて開基した、東国における禅文化発祥の寺。

参考資料：太田市観光物産協会ホームページ

どうする家康

主な登場人物（2023年 NHK 大河ドラマ）

- | | | |
|-----------------|-------------|--------------|
| 徳川家康役…松本潤 | 織田信長役…岡田准一 | 酒井忠次役…大森南朋 |
| 築山殿役…有村架純 | 織田信秀役…藤岡弘 | 本多忠勝役…山口裕貴 |
| 於愛の方役…広瀬アリス | 豊臣秀吉役…ムロツヨシ | 榊原康政役…杉野遥亮 |
| 徳川信康役…細田佳央太 | 武田信玄役…阿部寛 | 井伊直政役…板垣李光人 |
| 久松長家役…リリー・フランキー | | 鳥居元忠役…音尾琢真 |
| | 今川義元役…野村萬齋 | 本多正信役…松山ケンイチ |
| | 今川氏真役…溝端淳平 | 服部半蔵正成役…山田孝之 |
| | 糸役…志田未来 | お市役…北川景子 |
| | 関口氏純役…渡部篤郎 | 柴田勝家役…吉原光夫 |
| | 巴役…真矢ミキ | 石川数正役…松重豊 |
| | | 大久保忠世役…小手伸也 |
| | | 平岩親吉役…岡部大 |
| | | 鳥居忠吉役…イツセー尾形 |
| | | 夏目広次役…甲本雅裕 |
| | | 本多忠真役…波岡一喜 |
| | | 水野信元役…寺島進 |

徳川家康関係年表

年月	年齢	事項
天文 11年(1542) 12/26	1才	三河岡崎城主松平広忠の嫡男として生まれる。
13年(1544)	3才	母は三河刈谷城主水野忠政の娘於大。幼名は竹千代。
14年(1545)	4才	広忠、妻の兄水野信元が織田家に寝返ったため、於大を離縁。
16年(1547)	6才	広忠、三河田原城主戸田宗光の娘を後室に迎える。
	6才	尾張の織田信秀による安城城攻略を受け、広忠は竹千代を人質に出すことと今川義元の支援をはかる。ところが、義父戸田宗光の裏切りに遭い、身柄を織田家に送られる(異説あり)。
17年(1548) 3/19	7才	今川・松平連合軍、織田勢と小豆沢で激突。
18年(1549) 3/6	8才	広忠、岡崎城で近臣岩松八弥に殺害される。
11/9		義元、岡崎城を接收、今川勢は安城城を陥落させて城主織田信広を捕虜とする。竹千代との交換交渉が成立。竹千代は岡崎に戻るも、今度は今川氏の人質生活が駿府ではじまる。
24年(1555) 3月	14才	竹千代元服。松平元信と名乗る。
弘治 3年(1557)	16才	今川家一門関口義広の娘を娶る。後に元康と改名。
永禄 元年(1558)	17才	元康、三河寺部城の戦いで初陣を飾る。
3年(1560) 5/19	19才	桶狭間の戦いで今川義元討死。
5/23		岡崎城に戻る。今川勢撤退を受けて西三河の平定を開始。
4年(1561) 3月	20才	尾張清洲城主織田信長と同盟を結ぶ。東三河の平定を開始。今川勢と戦闘状態に入る。
5年(1562) 2月	21才	三河の上之郷城主鶴殿長照を討ち、2人の子を捕虜。駿府で人質となっていた正室築山殿、嫡男竹千代、長女亀姫と交換。
6年(1563) 3月	22才	竹千代(後の信康)と信長娘徳姫婚約。
7月		家康と改名。秋より一向一揆勃発(～翌年2月末に和陸)。
9年(1566) 5月	25才	三河牛久保城陥落により三河統一完了。
12/29		勅許による徳川改姓、三河守叙任。
11年(1568) 9/26	27才	信長、足利義昭を奉じて入京。
12月		遠江の今川領侵攻開始。武田信玄、駿河の今川領侵攻開始。
12年(1569) 5/6	28才	今川氏真と和陸して掛川城から退去させる。遠江をほぼ平定。
元亀 元年(1570) 4/22	29才	上京していた家康、信長とともに越前の朝倉領に攻め入るも、近江小谷城主浅井長政の裏切りに遭い、命からがら京都に帰還。
6/28		織田・徳川連合軍、浅井・朝倉連合軍を姉川の戦いで破る。
6月		居城を浜松に移す。
10月		上杉謙信と同盟締結。
3年(1572) 10/3	31才	信玄、駿河から遠江の徳川領に攻め入り諸城を陥落。別動隊は三河侵攻。
12/22		浜松城を出撃した徳川勢、三方が原で惨敗。
天正 元年(1573) 4/12	32才	信玄病没。
7/18		足利義昭、信長に降伏。室町幕府滅亡。
8/20		朝倉氏滅亡。
8/28		浅井氏滅亡。
9月		三河長篠城奪還。
2年(1574) 6月	33才	武田勝頼、遠江高天神城を奪取。
3年(1575) 4月	34才	武田勢、三河足助城を奪取。家康を三河吉田城に追い込む。
5/21		長篠城を包囲するも、織田・徳川連合軍に惨敗。
		家康、武田勢に奪取された遠江諸城の奪還を開始。
7年(1579) 8/29	38才	正室築山殿を殺害。
9/15		嫡男信康に自害を命ず。

お春名古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員 池田 格

お春名古墳は、高崎市足門町にあり榛名山東南麓の丘陵上に立地しています。古墳の立地する足門町の周辺には、榛名山を源流とする染谷川を挟んで王塚古墳群、庚申古墳群、寺屋敷古墳群、金井沢古墳群などの小規模古墳群が点在しています。

本古墳はそこの中、金井沢古墳群に属する円墳です。古墳の南側には農道があり、それ以外は人家に囲まれています。残念ながら、古墳の溝は壊されているため正確な大きさを知ることができませんが、直径22・25mの規模と推定されています。また、古墳墳丘の南側はこの農道に削られ変形しているものの、南側以外の墳丘部は原形が保たれています。

墳丘の直径は15mで、石室は横穴式石室で羨道は長さ3・2m、最大幅1・28m、玄室は長さ5・6m、最大幅2m、張出部

は長さ2・2m最大幅1・2mです。石室の開口方向は南西側ですが、埋められているため、現在はその姿を見ることはできません。現在は墳丘上に草が生えた、いわゆる土山になっていますが、平成4年の調査の結果、本来の墳丘には葺石が施され円筒埴輪と朝顔形埴輪が立てられていたことが分かりました。

この遺跡の最大の特徴は、複雑な形をした石室です。多くの古墳の横穴式石室が羨道や玄室などが縦に直線状に並ぶだけなのに対し、本古墳は張出部と呼ばれる、出っ張りを持つています。そのため図面などで形を見ると、まるで、カタカナの「ト」の字の形に見えます。本古墳の石室の様な「ト字形」の石室は古墳大冢と呼ばれる群馬県でも、本古墳と沼田の奈良古墳群の10号墳の2例のみであることを考えると、その希少性が理解できると思います。本古墳が造られたのは、石室の造り方や

遺物から6世紀の前半〜中頃と考えられます。この時期は群馬県に横穴式石室が導入され始めた時期であり、本古墳が「ト字形」という特徴的な構造を持つのは、いわゆる定型化される以前の古墳であることも関わっていると考えられます。では、本古墳が造られた、6世紀の榛名山麓はどのような世界だったのでしょうか。今は静かにたずむ榛名山ですが、6世紀初頭に榛名山二ツ岳が大規模な噴火を起こしており、火砕流が榛名山東南麓の本古墳の位置する足門町にも及んでいたことが分かっています。つまり、本古墳は、火山災害の被災地に造られた本格的な横穴式石室を持つ古墳といえることができます。当然ですが、古墳を造るには多くの人の労働力が必要になります。本古墳は6世紀初頭に被災したこの地域の人々が、6世紀前半〜中頃には災害からある程度復興していたという一つの証でもあるのです。

いたのかもしれない。

また、副葬品として耳環が4セット〜5セット確認できたことから、本古墳には、当初の埋葬者が葬られた後に、3〜4回の追葬が行われたと考えられます。この追葬という習慣は横穴式石室では一般的に見られる習慣です。発見された耳環の出土した場所を詳しく見ると、玄室の奥に頭が向くように遺体を置いていたことが想定できます。玄室の奥は、ほぼ北を向いていることから、当時の人々も北枕で埋葬していたということが分かります。

お春名古墳は、県道6号線沿いのセブンイレブン高崎足門店の道を挟んで向かいの住宅の裏になります。近くには「日本絹の里」や小規模古墳群などがあるので、合わせてウォーキングされるのもよいでしょう。ぜひ一度見学に訪れてみてはいかがでしょうか。

参考文献・図版出典

- ・群馬町誌 資料編1 原始古代 中世 20001 群馬町史編さん委員会
- ・「庚申遺跡」1996群馬町教育委員会
- ・「古墳人 現る」―金井東裏遺跡の奇跡― 2019 (公財)群馬県埋蔵文化調査事業団
- 図1 図2 「群馬町誌 資料編1」2001
- 写真1 3 「群馬町誌 資料編1 別冊」2001 群馬町教育委員会 提供・高崎市教育委員会
- 写真2 「奈良古墳群10号墳」 (提供・沼田市文化財保護課)



写真4 お春名古墳全景(現在)
住宅街に囲まれた中にひっそりとたたずむ。
後ろに見える榛名山は6世紀初頭のこの地域にも被害をもたらした。



写真3 お春名古墳全景(平成4年調査時)
現在は残念ながら埋められている。古墳と横穴式石室の関係がよく見てとれる。



図3 お春名古墳周辺地図(地理院地図)をもとに作成。

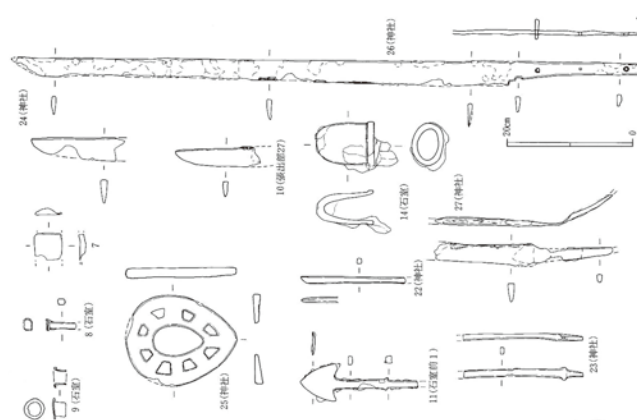


図2 お春名古墳の出土遺物。太刀や鉄鏃などが出土したことが分かる。

図1
お春名古墳全体図、張出部が特徴的な「ト字形」をしている石室が見てとれる。群馬県内では本古墳と奈良古墳群10号墳にのみ見られる。現在は閉鎖されているので見る事ができない。なんのために、張出部をもうけたのかは、今後の研究を待ちたい。

写真1
お春名古墳石室内部、写真左側が羨道部。通常の古墳と異なり、張出部がついているのが見てとれる。

写真2
お春名古墳と同様の「ト字型石室」を持つ、奈良古墳群10号墳(沼田市)。お春名古墳石室(写真1)と類似しているのが見てとれる。現在も開口しているので、特徴的な石室を実際に見ることができる。

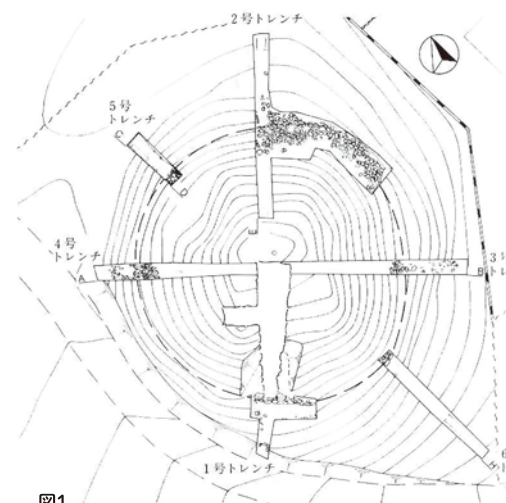


図1



写真2

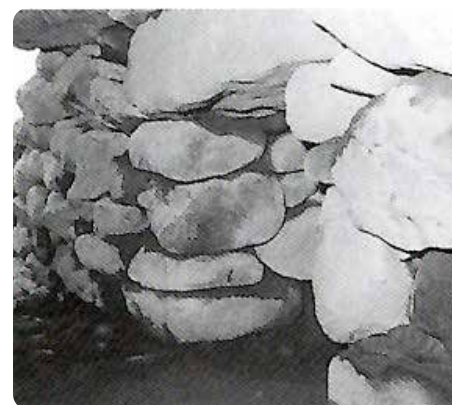


写真1

塩原友子

日本画の追求にかけた生涯

惜しまれる逝去

塩原友子が亡くなったのは、二〇一八（平成三〇）年一月二八日、一週間後には97歳の誕生日を迎えるはずの生涯だった。晩年は車いす生活ではあったが、若々しい精神と示唆に富んだ言動は最後まで健在で、画家仲間や教え子たちだけでなく、接する人すべてに影響を与え、愛され続けた。

前橋市民文化会館（昌賢学園まえばしホール）で三月二五日に開催された「塩原友子をしのぶ会」では、県内だけでなく東京や山形からも別れを惜しむ人たちが集まり、その思い出を語った。今でも多くの人々の心の中に生き続けている作家で、この度、株式会社ヤマトがその作品を数多く新収蔵し、展示の機会が増えたことは朗報である。

教員を辞めて美術学校へ

塩原友子は一九二（大正一〇）年二月四日、前橋市田口町に生まれた。塩原家は養蚕で財を成した名家で、父親は趣味で彫刻を彫ったという。県立前橋高等女学校現在の前橋女子高）から群馬県女子師範学校（後の群馬師範女子部、現在の群馬大学）に進学し、一九三九（昭和十四）年卒業。戦中戦後の十年余りの年月を、

教員として過ごす。

女子師範の終わり頃、旧制渋川中学校（現在の渋川高校）の教師で、「榛光会」を指導していた長野大原を知った。大原は館林出身の南画家・小室翠雲に学んだ南画系の日本画家で、大原の教えを受けることもともと絵の上手だった塩原友子は日本画家の道を歩むことになる。

敗戦による社会通念の転換は、戦前では困難だった独立した女性の生き方に味方した。一九五〇（昭和二五）年、両親の反対を押し切って教員を辞め、29歳で東京の武蔵野美術学校（現在の武蔵野美術大学）に入学。この断固とした決断力は生涯変わらない性格だ。

美術学校では10歳も年下の同級生から、お嬢さん探しに來たと冷やかされたようだが、若い学生とは違つて社会の仕組みや美術の世界が良く見えていた分、吸収する質も量も違つていた。「人生には無駄がないのよ」と後に語っている。

多くの人との出会い

当時の武蔵野美術学校の日本画教師陣には、奥村土牛、川崎小虎、塩出秀雄ら実力者がそろつていた。人間的にも奥が深い人々から教わることは、塩原友子の人

ようになった。

群馬の日本画壇を牽引

一九八〇年夏、塩原友子は郷里へ戻った。10年以上教えた東京純心女子短期大学で教授になったばかりのことだった。「都会の生活は合っていない」と思ったからだ。

以後、田口町の実家の蚕室を改造した広いアトリエで制作を続け、上野の日本画院展と銀座の文藝春秋画廊での個展で作品発表が続いた。一九八三年には燦燦会を結成して展覧会を開催。郷里の日本画壇を牽引する大きな存在になっていた。

生を豊かにした。

同郷の高橋常雄は6歳年下の日本画家だったが、日本画院展に出品している事を知り、塩原も同展に出品するようになった。その高橋の紹介で日本画院の創立者である望月春江に弟子入りする。一九五三年のことで、以後日本画院展が作品発表の主要な舞台となった。

多くの人との交流のなかで、井上三綱との出会いは決定的だった。戦前の帝展や新文展で活躍した井上三綱は、洋画家ではあったが彫刻も書もこなす多才な人物で、戦後は中央画壇との接触を断ち、小田原の山中で超俗的な生活をしていた。その個展を見た塩原は井上の作品に衝撃を受ける。小田原のアトリエに押しかけ、井上に同行して井上の師である九州の坂本繁二郎を訪ねたこともある。

「これが日本画だ」

塩原友子の初期の風景画や人物画は、形態の特徴を大づかみにした骨太の作風で、風景では輪郭線が、人物では色面が目立つ。この作風で日展にも4年連続で入選し、一九五七年には日本画院の同人に推挙された。井上三綱と出会ったのは一九五八年のことで、以後塩原

後半生の作品には郷里の自然を描いたものが多い。彫刻刀で彫り込んだ線描が特徴的で、重ねた絵の具の層を削るようになって描かれている。日本画の命は線にあるという思いからだ。

型破りで伝統とは無縁に見える塩原芸術の本質は、自然と共に生きてきた日本人の感性にある。油絵にも挑戦したことがあるが、これは「日本人の体質に合わない」と感じたようだ。

赤城、榛名、妙義の山々を屏風に描いた後、利根川を描いてみたいと語っていたが、それは残念ながら実現しなかった。画業の全貌を紹介する回顧展の開催が待たれている。



「旅の蒐集品」1989年 60×72



「あしたの風」1998年 80×100

- 略歴 塩原友子 TOMOKO SHIOBARA**
- 1921 2月4日、前橋市田口町に生まれる
 - 1937 群馬県立前橋高等女学校卒業
 - 1939 群馬県女子師範学校卒業後、教職に就く
 - 1950 1月、武蔵野美術学校に編入学
 - 1952 日本画院展に初入選、奨励賞受賞
 - 1953 日本画院の望月春江に師事
 - 1954 日展初入選、以後4年連続入選
 - 1957 日本画院同人推挙
 - 1958 井上三綱を知る
 - 1960 日展に彫刻が入選、以後日展出品を止める
 - 1963 11月渡欧、翌年7月帰国。以後頻りに世界を旅行
 - 1966 針生一郎企画「これが日本画だ」展に出品
 - 1967 東京純心女子短期大学非常勤講師、のち教授
 - 1980 帰郷、東京での作品発表は続ける
 - 1983 燦燦会を結成、第1回展を前橋燦乎堂で開催
 - 1986 群馬県美術会副会長就任、のち顧問
 - 1989 群馬大学教育学部非常勤講師、94年まで勤める
 - 1995 群馬県立近代美術館「群馬の作家たち」展に出品
 - 1999 前橋市民文化会館で画業60年展
 - 2004 群馬県立近代美術館特別展示で16点紹介
 - 2018 1月28日、96歳で死去

株式会社エフエム群馬様

群馬県前橋市



株式会社エフエム群馬の新社屋が令和四年（2022）三月に竣工しました。新社屋の建設は、総務省策定の「周波数再編アクションプラン」により、本社と牛伏山を結ぶ周波数帯の移行が必要になったため計画されました。所在地は前橋市の中心市街地で、新社屋前にはイベントが行われる広場「つどにわ」があり、ぐんま、前橋を元気にするための新たな情報発信・交流拠点としての役割が期待されます。建設プロダクトのヤマトは、エフエム群馬新社屋建設に携わらせていただきました。

建物概要

所在地	前橋市千代田町2-3-1
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建 鉄塔有
敷地面積	1,189.46㎡
建物面積	1,528.06㎡



リスナーズスペースCLUBAIR

旧社屋から長年リスナーに親しまれてきたオープンスタジオCLUB AIR（クラブエア）の名称を引き継ぎ、リスナーズスペースを設けました。広場に向かって大きく開かれたカフェ風の空間から、2つのスタジオが観覧できます。公開生放送や、広場と連動したイベントなどにも対応可能です。



ラウンジ

3階にある打ち合わせやブレイクタイムなど多目的に活用できるラウンジ。木質感あふれる空間で、可動式の間仕切りを開ければ、隣接する会議室と一体的に利用できます。

お客様 インタビュー

株式会社エフエム群馬
代表取締役社長 塚越 正弘 様



このたび、株式会社エフエム群馬は、新社屋の竣工を迎えることができました。これもひとえに、スポンサー様やリスナー様をはじめ、設計・施工関係者の皆様のご支援・協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。リスナーに親しみやすく、スポンサー様には広告効果が高まるメディアであること、ま

た社員にとって働きやすい職場となるように配慮し、計画いたしました。

また、この新社屋は、街中活性化に役立てていただける、中核施設の一つと考えています。

建物の敷地は、前橋信用金庫（現在のしのめ信用金庫）さんの本店があった場所で、同本店が高崎市のGメッセに移転したため、街中活性化のための広場として活用する構想があり、当社が参画しました。新社屋1階には、スタジオを

観覧できるリスナーズスペース「CLUB AIR（クラブエア）」を設置し、賑わいづくりの一端を担っています。CLUB AIRはリスナーがスタジオの放送を観覧できる全国的にも珍しい常設のスペースで、今回の移転前からリスナーに好評です。2022年10月1日は新社屋オープンイベントを開催

し、CLUB AIRをはじめ新社屋前の広場にたくさんのお客様がいらっしゃいました。

3階のラウンジは、社員がリラックスできる場所であり、スポンサーさんとの打ち合わせもくつろいでできるように工夫されています。ヤマトさんの社屋にある同様のスペースを参考にさせていただきました。業務と休憩を明確に区別せずに、働きやすい職場づくりを醸成する上で、活用できると

思います。現在、「ワクワクマシマシ」をキャッチコピーに、新社屋移転記念イベントを開催しています。社員一丸となって、更なるコンテンツの充実を図り、ぐんまを笑顔・元気にする放送を行いますので、引き続きエフエム群馬にご期待とご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

スタジオ

スタジオコンセプトは『上毛三山』+『谷川岳』
群馬を象徴する『上毛三山』のように県民に親しまれ、存在感のある民放ラジオ局であり続けたいとの思いが込められています。



AKAGIスタジオ(第1スタジオ)



HARUNAスタジオ(第2スタジオ)



TANIGAWAスタジオ(第3スタジオ)



MYOUGIスタジオ(第4スタジオ)

主要沿革

昭和60年（1985）9月
郵政省の試験合格、本免許受領
昭和60年（1985）10月
本放送開始
平成7年（1995）11月
オープンスタジオ「クラブエア」開設
令和4年（2022）3月
新社屋竣工
令和4年7月
新社屋から放送開始